

# 琉球大学学術リポジトリ

## 教員養成課程における入学前教育の実施と評価

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2023-10-17 キーワード (Ja): 教員養成, 入学前教育, 高校生 キーワード (En): 作成者: 淡野, 将太, 中尾, 達馬, 廣瀬, 等, 城間, 吉貴 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24564/0002020019">https://doi.org/10.24564/0002020019</a>

# 教員養成課程における入学前教育の実施と評価

淡野 将太<sup>1</sup>・中尾 達馬<sup>2</sup>・廣瀬 等<sup>3</sup>・城間 吉貴<sup>4</sup>

Pre-entrance education and self-evaluation of incoming university students

Syota TANNO<sup>1</sup>, Tatsuma NAKAO<sup>2</sup>, Hitoshi HIROSE<sup>3</sup>, Yoshitaka SHIROMA<sup>4</sup>

## 要 約

本研究は、教員養成課程における入学前教育の実施と評価を行なった。6名を対象に入学前教育を実施し、事前及び事後の変化に関する自己評価を検討した。その結果、思考力、表現力、大学で学ぶ意欲、小学校教育に対する意欲・関心、及び、小学校教員としての適性について6名全員が向上したと回答し、有意水準5%の二項検定は有意だった。判断力に関する自己評価は5名が向上したと回答し、有意水準5%の二項検定は有意ではなかった。ただし、判断力が向上しなかったと回答した参加者の自由記述は、入学前教育によって判断力の向上が動機づけられたことを示した。これらを総合して本研究の入学前教育の有効性を考察した。

キーワード：教員養成、入学前教育、高校生

入学前教育（pre-entrance education）とは、比較的早期に合格発表が行われる大学入学者選抜による入学予定者を対象とした入学前に行なう教育と定義できる（文部科学省, 2022; 日本私立学校振興・共済事業団, 2014; 岡田, 2021）。入学前教育は初年次教育及びリメディアル教育（remedial education）とは異なる教育概念である（岡田, 2021）。入学前教育の例として、国公立大学の総合型選抜や学校推薦型選抜による入学予定者に対して入学前に課す入学準備としての教科学習や大学卒業後の進路を展望するキャリア教育や入学予定者が集まるキャンプが挙げられる。

文部科学省（2022）は、国公立大学の大学入学者選抜において、大学入学手続をとった者のうち特に12月以前に入学手続をとった者に対して積極的に入学前教育を講じるよう努めることを求めている。具体的には、文部科学省（2022）の「令和5年度大学入学者選抜実施要項」において「各大学は、入学手続をとった者に対し、必要に応じ、

これらの者の出身高等学校と協力しつつ、入学までに取り組むべき課題を課すなど、入学後の学修のための準備をあらかじめ講ずるよう努める。特に12月以前に入学手続をとった者に対しては、積極的に当該措置を講ずることとする。（中略）なお、当該措置を講じる場合は、その旨を募集要項に記述する。その際、アドミッション・ポリシーとの関連に留意する。」と記している。なお、岡田（2021）は、行政文書の吟味と整理を通して入学前教育に対する言及の変遷を明らかにする中で、入学前教育という表現が用いられている行政文書は、文部科学省の「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について（通知）」が唯一であり、その他は同義の別表現が用いられていることを指摘している。

本研究は、教員養成課程における入学前教育の実施と評価を行なう。対象者は、琉球大学教育学部学校教育教員養成課程小学校教育コース学校教育専攻の総合型選抜Ⅰによる入学予定者とする。

<sup>1</sup> 琉球大学教育学部 准教授

<sup>2</sup> 琉球大学教育学部 准教授

<sup>3</sup> 琉球大学教育学部 教授

<sup>4</sup> 琉球大学教育学部 講師

アドミッション・ポリシーを考慮し、入学前教育の達成目標を思考力、判断力、表現力、大学で学ぶ意欲、小学校教育に対する意欲・関心、及び、小学校教員としての適性に関する自己評価の向上に設定する。琉球大学教育学部のアドミッション・ポリシー（琉球大学, 2022a）は、求める学生像と高等学校等で履修すべき科目や習得しておくことが望ましい資格等について次のように記している。すなわち、求める学生像として「教育という営みの本質を学びつつ、主として学校教育に関わる今日的な問題に真剣に取り組もうとする、次のような人材を求めています。a 教員として主体性をもち、子ども及び社会と関わっていきいたい人、b 教育の理論と実践を広く深く学ぶ意欲のある人、c 高等学校での基礎学力を身に付け、思考力・判断力・表現力をもつ人、d 沖縄の歴史的・環境的・文化的・社会的特性を活かしながら、グローバルな視点に立って教育活動に携わりたい人」と記している。また、高等学校等で履修すべき科目や習得しておくことが望ましい資格等は、学部及び課程共通として「本学部は幅広い教養や興味関心が求められる教員を養成するため、高等学校等の教育課程を尊重しており、授業科目を偏りなく学んで基本的な学力を身に付けていることを期待します。」と記し、小学校教育コース学校教育専攻として「小学校教員は全教科を教えることになるため、高等学校の教育課程を満遍なく履修することに加えて、各自の興味・関心に応じて様々なことを学び、子どもや学校に関わることについて興味や関心を深めていることを望みます。」と記している。入学前教育に関する事項については、琉球大学の令和5（2023）年度学生募集要項総合型選抜I（大学入学共通テストを課さない）（琉球大学, 2022b）は、「入学前教育」として「送付された課題への取り組み及びオンラインによる報告会への参加」と記している。本研究は、入学前教育を実施し、事前及び事後の変化に関する自己評価を検討する。

## 方法

### 参加者

参加者は6名だった。入学手続をとった者のう

ち、入学前教育に参加した者を研究対象とした。参加率及び完了率は100%だった。平均年齢は入学前教育開始前の11月上旬時点で17.83歳（ $SD = 0.37$ ）だった。

### 倫理的配慮

本研究の実施に際して倫理的配慮を行なった。入学前教育の案内時に入学前教育で実施する内容及びその評価を教育研究及び今後の入学前教育の改善に活用することがある旨を説明し、同意の上入学前教育に参加することを求める文を記載した。

### 手続き

まず、参加者に対して入学前教育の案内と入学前教育の課題一覧を送付した。送付時期は11月上旬だった。入学前教育の案内には入学前教育の概要と担当者である第一著者と第二著者の連絡先を記した。入学前教育の課題一覧には後述する課題の詳細と期限を記載した。次に、各課題を各期限までに担当者宛にメールで提出させた。期限は2022年11月末あるいは2023年2月中旬開催の報告会の1週間前だった。次に、担当者と参加者が出席する報告会を開催した。開催時期は2023年2月中旬だった。最後に、入学前教育を終了した後の自己評価の実施を通知し、期限までに担当者宛にメールで提出させた。入学前教育を終了した後の自己評価のみ報告会終了時に通知した。期限は2023年2月中旬開催の1週間後だった。

### 入学前教育の課題

**入学前教育を開始する前の自己評価** 入学前教育を開始する前の参加者の自己評価として、思考力、判断力、表現力、大学で学ぶ意欲、小学校教育に対する意欲・関心、及び、小学校教員としての適性についてそれぞれ100字程度で記述させた。提出期限は2022年11月末とし、メールで提出させた。なお、参加者の解釈可能性を考慮し、本研究で配布した入学前教育に関する書類では自己評価を自己分析と表記した。

**推薦図書**の講読及びレポート作成 推薦図書の講読及びレポート作成として、推薦図書一覧から1冊を選択させ、本の内容を800字程度で要約させるとともに内容に対する参加者の考えを1,000字程度で記述させた。推薦図書一覧は、琉球大学教育学部学校教育専攻の教員が作成した。著者名

と題名に推薦文を付して17冊の推薦図書一覧を作成した。提出期限は後述する報告会の1週間前とし、メールで提出させた。

**学校教育に関わる今日的な問題に関する調べ学習及びレポート作成** 学校教育に関わる今日的な問題に関する調べ学習及びレポート作成として、学校教育に関わる今日的な問題を1つ取り上げさせ、その内容を800字程度で要約させるとともに内容について参加者が調べたり考えたりしたことを1,000字程度で記述させた。提出期限は推薦図書の講読及びレポート作成と合わせて後述する報告会の1週間前とし、メールで提出させた。

**報告会への参加** 推薦図書の講読及びレポート作成と学校教育に関わる今日的な問題に関する調べ学習及びレポート作成の報告会として、担当者がZoomを用いた報告会を開催し、参加者がプレゼンテーションを行なった。報告会は2部構成とした。第1部は、参加者による自己紹介、参加者による推薦図書の講読及びレポート作成に関する発表、参加者間での質疑応答、続いて担当者による講評とした。第2部は、参加者による学校教育に関わる今日的な問題に関する調べ学習及びレポート作成に関する発表、参加者間での質疑応答、続いて担当者による講評とした。開催時期は2023年2月中旬だった。

**入学前教育を終了した後の自己評価** 入学前教育を終了した後の参加者の自己評価として、思考力、判断力、表現力、大学で学ぶ意欲、小学校教育に対する意欲・関心、及び、小学校教員としての適性について事前と事後で向上したか否かを2段階評定法で評定させるとともに、事前と事後を比較してどのように変化したかをそれぞれ100字程度で記述させた。提出期限は報告会の1週間後とし、メールで提出させた。入学前教育を開始する前の自己評価と同様に、配布した書類では自己評価を自己分析と表記した。

## 結果

### 入学前教育による自己評価の向上に関する2段階評定

入学前教育を終了した後の自己評価における思考力、判断力、表現力、大学で学ぶ意欲、小学校

教育に対する意欲・関心、及び、小学校教員としての適性が向上したか否かに関する2段階評定を集計した。その結果、思考力、表現力、大学で学ぶ意欲、小学校教育に対する意欲・関心、及び、小学校教員としての適性に関する自己評価は、参加者6名全員が向上したと回答した。有意水準5%で二項検定を行なった結果、これらの項目に関する自己評価は入学前教育によって有意に向上したことを示した ( $p_s = .02$ , two-tailed)。一方、判断力は、5名が向上したと回答し、1名が向上しなかったと回答した。有意水準5%で二項検定を行なった結果、この項目に関する自己評価は入学前教育によって有意に向上しなかったことを示した ( $p = .11$ , *n.s.*)。

### 入学前教育の事前と事後を比較した自由記述

入学前教育を終了した後の自己評価における思考力、判断力、表現力、大学で学ぶ意欲、小学校教育に対する意欲・関心、及び、小学校教員としての適性についての事前と事後を比較した自由記述の概要を以下に記す。なお、具体的な自由記述は論文末尾に付録としてまとめた。付録では参加者ごとにアルファベット a から f を付した。

まず、入学前教育の有効性が統計的に有意だった項目の概要を記す。参加者6名は、それぞれの項目について次のように記述した。思考力については、思考を深めることができたこと、思考力を深める方向や選択肢が広がったこと、意見を聞くことや思考ができたこと、知識及び思考方法の獲得に加えて新たな視点からの思考が可能になったこと、試行錯誤や意見交換で思考を深めたこと、知識が増加したことで物事を多面的に思考し観察することの重要性を知ったことを記述した。表現力については、工夫して発表したこと、スキルを向上させる必要があると再確認するとともに新たな表現方法なども学んだこと、文章で表現したり発表を工夫したりしたこと、まとめたり表現したりするだけでなく意見交換で思考方法を獲得したり試行錯誤したりできたこと、文章化する表現力が向上していると感じるとともに話す際の表現力を向上させたいと考えたこと、報告会の準備を行う中で表現力が養われたと考えることを記述した。大学で学ぶ意欲については、子どもと触れ合う機会だけでなく意見交換の時間も大切にしたい

と感じたこと、楽しみの気持ちが大きくなったこと、4年間頑張ろうと思ったこと、教育課題について解決策を見つけていきたいこと、大学で学ぶことがより楽しみになってきたこと、教育関連の事項についてより大学で学んでいきたいと思ったことを記述した。小学校教育に対する意欲・関心については、問題解決に貢献したいという思いが高まったこと、正しい知識を身に付けた上で一人一人と接することの責任の重さを再確認することができたこと、教育に関して学びたいと強く思ったこと、教育課題を解決したいと思ったこと、考えるべき向き合うべき問題の多さに圧倒されたが大学で学び頑張らなければいけないという想いも同時に強くなったこと、学びたいと強く思うとともに教師になった際にはいろいろなことを研究しながら子ども達と向き合っていきたいと思うようになったことを記述した。小学校教員としての適性については、自分なりの考えを持ち他の参加者に伝えることができたことに加えて自分の未熟な部分を知ることができたこと、子ども達に伝えたいこと及び努力したい気持ちを強く持っていることに加えて自ら積極的に学んでいくこと、教育に関する知識を増やすことができたことに加えて成長したと感じたこと、現場に立った時に何をすべきなのか考える機会となり適性が向上したと評価したこと、教師になるための心構えを意識することを学ぶとともに学びを止めずに反省・改善を繰り返しながら成長していくことを心がけること、知識が増え適性が向上したと考えることを記述した。いずれの記述も各項目の向上を示す。

次に、入学前教育の有効性が統計的に有意ではなかった判断力について記す。入学前教育による自己評価の向上に関する2段階評定において判断力が向上したと回答した参加者a, b, c, d及びfは、記述内容の確認及び判断に加えて根拠となる資料がどのようなものになるのか判断できたこと、正しい判断につながる材料が増えたと感じることに加えてさらに深く情報を集めたいと思うこと、発表に使う情報と使わない情報を区別しながら沢山の情報に触れることができたこと、現場で誤った判断をしないための知識を獲得したこと、情報の正誤及び自分に必要な情報を見極める中で判断力が向上したと考えることを記述した。

これらの記述は判断力の向上を示す。入学前教育による自己評価の向上に関する2段階評定において判断力が向上しなかったと回答した参加者eは、「報告会におけるパワーポイントで、表示するグラフが適切でないことを指摘され、効果的な情報を選び取ることが出来ていないことを自覚した。物事を正確に捉え判断することを意識して向上していけるように努力する。」と記述した。この記述は入学前教育によって判断力の向上が動機づけられたことを示す。

## 考察

本研究は、教員養成課程における入学前教育の実施と評価を行なった。入学前教育を実施し、事前及び事後の変化に関する自己評価を検討した。入学前教育による自己評価の向上の統計的有意性は項目によって異なった。入学前教育による自己評価の向上に関する2段階評定では、思考力、表現力、大学で学ぶ意欲、小学校教育に対する意欲・関心、及び、小学校教員としての適性は6名全員が向上したと回答し、入学前教育によって有意に向上したことを示した。一方で、判断力は5名が向上したと回答し、入学前教育によって有意に向上しなかったことを示した。

入学前教育による自己評価の向上の統計的有意性は項目によって異なったが、自由記述の内容の検討によって本研究の入学前教育の有効性が考察できる。思考力、表現力、大学で学ぶ意欲、小学校教育に対する意欲・関心、及び、小学校教員としての適性に関する自由記述は、いずれも各項目の向上を示した。判断力に関する自由記述は、2段階評定において判断力が向上したと回答した参加者a, b, c, d及びfについては、判断力の向上を示した。また、2段階評定において判断力が向上しなかったと回答した参加者eについては、入学前教育によって判断力の向上が動機づけられたことを示した。判断力については向上に統計的有意性はなかったが、自由記述は入学前教育の有効性を示すと言える。以上を総合して、2段階評定及び自由記述は判断力を含めて入学前教育の有効性を示すと考えられる。

なお、入学前教育については、その精緻化が求

められる。澤口・児玉・巽（2015）は、基礎学力の補強及び向上を目的とした入学前eラーニング教育を実施する中で、1年次経済学理論科目に及ぼすリメディアル教育としての数学教育の影響を検討している。論文ではリメディアル教育としての数学教育を入学前教育と同義的に用いているが、入学前教育とリメディアル教育の定義の区別（岡田，2021）に従うとリメディアル教育と読まれるべきである。研究の結果、リメディアル教育としての数学教育を完了した学生の大学入学後の授業科目である「ミクロ経済学」及び「マクロ経済学」の成績は完了しなかった学生より有意に高いこと、リメディアル教育としての数学の成績は「ミクロ経済学」及び「マクロ経済学」の成績を予測すること、リメディアル教育としての数学教育を完了した学生の大学入学後の授業科目である「経済学入門A」の成績は完了しなかった学生より有意に高いが一般入学生の成績と有意差はないことを明らかにしている。この研究が取り扱った数学教育は入学前教育eラーニングにおけるリメディアル教育であるが、入学前教育の発展に貢献しうる知見の公表と言える。岡田（2021）は、入学前教育が拡大していくことが想定される中で、各大学は大学の実情を把握した上で目的、対象者、内容等を設定し入学前教育を展開することが求められると指摘している。このような入学前教育をめぐる背景の中で、本研究は教員養成課程における入学前教育の実施と評価を行ない知見を公表した。

## 引用文献

- 文部科学省（2022）. 令和5年度大学入学者選抜実施要項[https://www.mext.go.jp/content/20210617-mxt\\_daigakuc02-000010813\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210617-mxt_daigakuc02-000010813_1.pdf)（2023年2月27日）
- 日本私立学校振興・共済事業団（2014）. 入学前教育 [https://www.shigaku.go.jp/p\\_dic\\_t043.htm](https://www.shigaku.go.jp/p_dic_t043.htm)（2023年2月27日）
- 岡田 航平（2021）. 行政文書における入学前教育の変遷と考察 京都大学高等教育研究, 27, 48-56.
- 澤口 隆・児玉 俊介・巽 靖昭（2015）. 経済学科推薦入試入学生に対する入学前eラーニング教育の1年次経済学理論科目にもたらす効果 京都大学高等教育研究, 21, 27-39.
- 琉球大学（2022a）. 琉球大学入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） <https://www.u-ryukyu.ac.jp/admissions/3policy/admission>（2023年2月27日）
- 琉球大学（2022b）. 令和5（2023）年度学生募集要項総合型選抜I（大学入学共通テストを課さない） [https://www.u-ryukyu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/07/01-00R5sogo1\\_boshuyoko.pdf](https://www.u-ryukyu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/07/01-00R5sogo1_boshuyoko.pdf)（2023年2月27日）

## 付録

### 入学前教育の事前と事後を比較した自由記述

思考力 a「複数の記事を読み比べたり、根拠となる調査結果のグラフを分析したりしたことをマインドマップでまとめた。これにより事柄の背景やほかとの関係性などが追求しやすくなり、考えを深めることができた。」、b「報告会を通して自分が持っていなかった考えにも多く触れることができ、思考力を深める方向や選択肢が広がった。」、c「入学前教育を通して、同じ事柄に対するあらゆる視点からの意見を聞くことができた。様々な角度から教育に結び付けて考えたりすることができた。」、d「推薦図書を読んで、自分が知らなかった知識を得ることができただけでなく、自分にはなかった視点からの考え方を得ることができた。新しく得た知識をもとに、自分なら何ができるか、より新たな視点から考えることが出来るようになった。」、e「推薦図書についての課題で『授業と格差』を考えた際、何度も考え、自分の中の解決策を出そうとした。どうすれば理想の授業を実現できるのか、子ども達のための授業になるのかを、試行錯誤や意見交換を行いながら思考を深めていった。」、f「入学前教育に関するレポートなどを作成していく中、新しい知識が増えていった。それにより、今まで考えていなかった分野についても考える機会になり、より物事を多面的に思考、観察することの大切さを知った。」

判断力 a「書く内容が設定したテーマからずれていないか、定期的に確認し、判断した。マインドマップを使ったことで考えを効率的に整理で

きたため、根拠となる資料がどのようなものになるのかを判断できた。」、b「入学前教育を通して、以前と比べて様々な教育問題の現状に加え、その問題が起こった背景にも触れながら理解が深まったので正しい判断につながる材料が増えたように感じる。ただ、自分の判断力はまだ不十分に感じるためさらに深く情報を集めたいと思う。」、c「インターネットを使ったり本を読んだりして入学前教育の準備をしていく中で、自分の発表に使う情報と使わない情報を区別しながら沢山の情報に触れることができた。」、d「推薦図書を読んで、現代の教育が子供達を商品化してしまっていることを知った。そこから、教育虐待にならないために、誤った教育方針を知り、子供達の自由な学習について考えることが出来た。これにより、現場で誤った判断をしないための知識がついた。」、e「報告会におけるパワーポイントで、表示するグラフが適切でないことを指摘され、効果的な情報を選び取ることが出来ていないことを自覚した。物事を正確に捉え判断することを意識して向上していけるように努力する。」、f「プレゼンをするにあたって、色々なサイトを検索し見ていく中でどれが正解なのか、またどれがいま自分にもっとも必要な情報がどれなのか。それを見極めていく中で判断力は向上したと考える。」

**表現力** a「報告会では、聞き手が理解しやすいよう、接続語や話す順序を工夫して発表した。パワーポイントは情報量や配置を調整したり、グラフを部分的に強調したりすることで、見やすくなるよう工夫した。」、b「他の参加者に比べて、下準備が不十分で自分自身のスキルとしてより磨いていかないといけないと再確認するいい機会になった。また、話題が同じでも一人一人の表現の仕方が異なり、新たな表現の仕方なども勉強になった。」、c「入学前教育で伝えたいことを文章で表現したり、発表の際に担当者だけではなく他の参加者にわかりやすく伝わるように発表を工夫したりした。」、d「報告会を通して、パワーポイントで調べたことをわかりやすくまとめたり、自分の意見をまとめて表現したりするだけでなく、意見交換をすることで、自分にはない考え方を得たり、自分の意見を相手に分かりやすく伝えるために試行錯誤したりすることができた。」、e「考

えていることを文章化する表現力は向上していると感じる。しかし、話す際に人に誤解がなく伝わるように意識しているが、文章が拙くなってしまっているので、瞬時に相手に伝わりやすいように話す表現力も向上させたい。」、f「プレゼンの準備を行う中で養われたと考える。自分で練習をする中で、どのようにすれば伝わりやすいのかを言葉にするアウトプットの難しさを再確認するとともに楽しさも実感した。」

**大学で学ぶ意欲** a「調べ学習をし、その後他者と考えを共有することの重要性を学んだ。報告会の意見交換により視野が広がったため、子どもと触れ合う機会だけでなく、他者との意見交換の時間も大切にしていきたいと感じた。」、b「私たちが発表した内容の中で担当者から研究者視点の意見などを聞き、納得した部分や初めて聞いた情報などを知り、大学で教育に関しての勉強がより詳しく学べる事を実感することができ、以前は不安も大きかったが、今は楽しみの気持ちが大きくなりました。」、c「発表の際に参加者間で意見を言い合う中で、沖縄の強みを生かして学力を伸ばす、という話が上がり、私にはなかった考えに触れることができて、いろいろな意見をもった仲間と4年間、切磋琢磨しながら頑張ろうと思った。」、d「推薦図書を読んだり、報告会で意見交換をしたりするなかで、解決策が分からない教育課題が出てきた。大学では基礎的な知識を学びながら、周りとの意見交換も含めて、自分なりの解決策を見つけていきたい。」、e「課題図書や報告会で新しい意見や考え、情報を知り、こういう考えも出来るなという発見が多かったので、とても勉強になった。大学では新たな発見や意見交換の機会が多いので、大学で学ぶことがより楽しみになってきた。」、f「教育に関する様々なことを調べ、まとめていく中で大学でこんなことを学べたらいいな、と受験前よりも強く思うようになった。また、報告会の中で、何度か担当者が、これは大学で学んでいきます、と指摘していたこともあり、より大学で教育関連について学んでいきたいと思った。」

**小学校教育に対する意欲・関心** a「調べ学習と報告会を通して、すべての学校教育問題にはつながりがあり、また、問題の捉え方は人それぞれ

であることがわかった。問題の背景や現状などを学び、問題解決に貢献したいという思いが高まった。」、b「参加者が取り上げた学校教育の問題である貧困、多忙化、ICT教育などのほかにも様々な解決しなければならない問題がたくさんあり、子どもたちのためにも正しい知識を付けた上で一人一人と接することの責任の重さを再確認することができた。」、c「私にはなかった意見や考えに触れて刺激をもらうことができた。また、担当者に私の発表に対しての意見をもらい、さらに興味がわき、大学で教育に関して学びたいと強く思った。」、d「推薦図書や意見交換から新たな教育課題を見つけることができたので、これを解決するために大学で学び、実際に教育現場で活用しながら、子供達が抱える課題を解決していきたいと思った。特に推薦図書を読んで感じた教育虐待を解決していきたい。」、e「課題で小学校教育に関する問題を調べた際、考えるべき・向き合うべき問題の多さに想像しただけで圧倒されたが、子ども達の未来のために私たちが大学で学び、頑張らないといけないという想いも同時に強くなった。」、f「小学校教育について様々なことを調べていくうちに、こんなことを大学で学びたい、と強く思うようになった。それに加え教師になった際にはいろいろなことを研究しながら子ども達と向き合っていきたいと思うようになった。」

小学校教員としての適性 a「他の参加者の発表を聞いた上で自分なりの考えをもち、それを相手に伝えることができた。自分とは異なるプレゼンテーションの仕方と考え方に触れられたため、自分の未熟な部分を知ることができた。」、b「子どもたちに伝えたいこと、子どもたちのために一歩ずつでも努力したい気持ちは強く持っている。この気持ちに加え、報告会で得た経験もプラスに活かせるよう、これからも自ら積極的に学んでいく。」、c「入学前教育を通して教育に関する知識を増やすことができた。また、みんなの考えを聞いて、様々な視点の考え方を持つことができ、とても成長したと感じた。」、d「新しい知識や考え方を得たり、自分には何ができるかを考えたりすることで、実際に教育現場に立った時に何をすべきなのかを考える機会になった。今でそれを考えることで、現場に立った時の迷いが減るため、

適性が向上した。」、e「課題図書を読んだ際に、教師になるための心構えと意識することを学んだ。大学で学びを止めるのではなく、教師になってからも発達可能な自覚を持ち、学びを止めず反省・改善を繰り返しながら成長していくことを心がける。」、f「単純に、入学前教育を始める前と比べて知識が増えたと考える。教員をするうえで子ども達に対しての知識や教育に対しての知識は、深く持つておくべきだと考えるため、向上した。」